

三毛別罽事件復元跡地

7人が犠牲となった
獣害史上最大の悲劇を復元



大正4年(1915年)12月9日、10日の両日、苫前町三毛別(現在の三溪)の集落で、一頭のヒグマが女性や子供7人を殺害、3人が重傷を負うという痛ましい事件が起きました。獣害史上例のない大惨事となったこの事件現場付近に、当時の開拓小屋やヒグマのレプリカなどを再現した「三毛別罽事件復元跡地」が完成し、開拓の悲話を後世に伝える観光スポットとして、平成2年(1990年)から公開されています。

事件は冬眠の機会を逃した「穴持たず」と呼ばれるヒグマが太田家に現れ、女性と子供を食い殺したことから始まりました。恐怖におびえた住民は近くの明景家に避難していましたが、ヒグマは翌日の夜、太田家の通夜に再び現れた後、明景宅を襲い、さらに5人が犠牲となりました。激しい物音と地響きとともに、窓の辺りを凄まじい勢いで打ち破り、囲炉裏を飛び越えなだれ込んできたヒグマは大鍋をひっくり返し、焚き火を蹴散らし、次々に女性たちを襲ったといわれます。このヒグマは事件発生から6日目の14日、地元のマタギの手によってあえなく最期を遂げました。体長2.7m、体重約380kg、金毛を交えた黒褐色のオスで、袈裟がけの7、8歳とされています。

復元跡地に向かう途中にある三溪神社の境内には「熊害慰霊碑」が建っています。これは事件当時、少年だった地元の大川春義氏が昭和52年(1977年)7月に建立したものです。被害者の霊を弔うために100頭の熊撃ちを始めた大川氏が、40数年がかりで悲願を達成し、三溪部落会の協賛を得て、犠牲者の名前を刻んだ慰霊碑を建立しました。

見どころ

復元跡地は古丹別市街から道道1049号を南へ約16kmの場所にあり、その道のりはベアロードと名付けられています。跡地には当時の生活を再現した家屋と事件を解説する看板、民家に襲いかかろうとするヒグマの像があり、事件の悲惨さがつぶさに伝わってきます。

ポイント

ヒグマに襲われた苫前町三毛別の集落は事件後、一人また一人と村を去り、やがて無人の地となりました。苫前町が町おこしの一環で、現地を復元したのは事件から75年を経た平成2年(1990年)。森林に囲まれた薄暗い場所で、今でもヒグマが出現しそうな雰囲気が恐怖と悲しみを感じさせます。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

知る

三毛別罽事件は吉村昭の小説「罽嵐(くまあらし)」をはじめ、多くの作家が小説にし、舞台や漫画、映画の題材としても取り上げられています。中でもノンフィクション作家、木村盛武氏の「慟哭の谷 The Devil's Valley」は1994年の初版から現在も読み継がれている貴重なドキュメンタリーです。



山溪神社脇に建てられた熊害慰霊碑

■基本情報 (R3. 5)

【熊害慰霊碑】

住所：苫前郡苫前町字三溪
建立：昭和52年7月5日